

東大使からのメッセージ（大使館便り 10月号より）

平成 26 年 10 月 1 日

秋分の日も過ぎ、秋もたけなわの今日この頃、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

今月は、「安倍総理ポルトガル訪問のフォローアップ」として、「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」へのベレーザ・シャンパリモー財団理事長の出席及び「大分市とアヴェイロ市の姉妹都市交流」を御紹介致したく存じます。

「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」へのベレーザ・シャンパリモー財団理事長の出席

去る5月の安倍総理のポルトガル訪問の際の「共同コミュニケ」の中に、「女性のエンパワーメントに関する国際的行事の成功に向けポルトガルが貢献」とありますが、この具体的実現として、9月12－13日、東京において、「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」略称(WAW! Tokyo 2014)が開催され、ポルトガルからは、ベレーザ・シャンパリモー財団理事長が出席しました。

これは、安倍総理ポルトガル訪問の際に、「シャンパリモー財団」を訪問された安倍総理からの直接の招待に基づくものです。

同「シンポジウム」は、安倍政権の最重要課題の一つである「女性が輝く社会」を実現するための取り組みの一環として開催されました。クリスティーヌ・ラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事をはじめ世界各国及び日本各地から女性分野で活躍するトップリーダーが出席し、日本及び世界における女性の活躍促進のための取り組みについて議論が行われ、議論の結果として「提言」(WAW To Do)も提示されました。

ベレーザ理事長は、「分科会」において、ポルトガルにおける女性の活躍の現状や、「シャンパリモー財団」の設立の過程、同理事長が理事長に就任した経緯、「女性」の理事長としての活動等について発言しました。同「分科会」に出席された安倍総理からは、「シャンパリモー財団」に対する称賛の御言葉を頂いたそうです。

また、同「シンポジウム」開催の機会に、「シャインウィークス」の一環として埼玉の城西大学での講演会が行われましたが、ベレーザ理事長はここで「女性の力で地域が輝く」とのテーマで講演されました。

同講演では、御自身の経験をふまえ、ポルトガルにおける女性の地位の変化の経過について言及した後、「女性が輝く社会」を実現するためには、働く女性に対する「外部的な障害」(社会の古い慣習・考え方(女性差別・偏見)、社会や家族からのサポート体制の欠如)の除去が重要であるが、それに加えて、働く女性自身の「内なる障害」の除去(「もっと上をめざそう」との意識改革)の重要性を指摘されました。欧州委員会においても28名の委員の内9名が女性の委員になっていることに言及し、「女性がハイランキングな地位にいないことをもはや許さない社会」となるために、各国国民の大多数がこの意識改革に賛同するようになることを信じている旨言及すると共に、その意味からも今回の「安倍総理のイニシアティブ」による「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」の開催を高く評価する旨述べました。

同講演会では、外国人の学生を含む多数の聴衆から質問が寄せられ、極めて活発な議論が行われました。講演の後、自治体関係者、学生、地域住民との交流も行なわれました。

また、城西大学の水田宗子理事長の招きで、大学の学長や研究機関の代表による世界的な女性のネットワークに参加し今後も交流を継続することとなりました。

「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」略称(WAW! Tokyo 2014)は、「女性版ダボス会議」とも位置づけられ、来年も同「シンポジウム」WAWを日本で開催する旨発表されました。

今後は、日本政府としても、今次提言(WAW To Do)を「WAWムーブメント」として世界に発信、行動に移すこととしており、ポルトガルにおいてもこの面でもベレーザ理事長と協力して行きたいと考えております。

大分市とアヴェイロ市の姉妹都市交流

安倍総理のポルトガル訪問の際の「共同コミュニケ」の中に「姉妹都市交流の促進」が挙げられています。

この関連で、8月16日から20日まで、大分市 小出祐二副市長及び板倉永紀市議会議長一行がアヴェイロ市との姉妹都市交流の更なる発展を図るため同市を訪問されましたが、私も一行に同行しました。

大分市とアヴェイロ市は1978年に姉妹都市提携を締結し、本年で36周年を迎えました。

これまでにアヴェイロ市親善訪問団の大分市訪問、大分市長一行のアヴェイロ市訪問等の交流が行われてきています。

先程述べたとおり、本年5月の安倍総理ポルトガル訪問の機会に発表された「共同コミュニケ」の中でも、「姉妹都市交流」の促進が謳われています。また、私は、本年3月には、同市を訪問し、エステヴェス市長を表敬しました。同市長から、「アヴェイロ市には、セラミック、自動車部品、紙・パルプ、農業機械等の中小企業が集積、ルノー・ボッシュの工場もあり、ポルトガル有数の産業都市であること、アヴェイロ大学を中心とする学術都市でもあり、同大学が民間企業とも協力していること、また、運河の美しい「水の都市」として観光業も盛んであり、これらの分野で日本との関係強化を図りたい」とのお話を頂きました。

更に、7月にも、私は、アヴェイロ大学で開催された「デザイン国際学会」の機会に日本の研究者の方々と共にアヴェイロ大学の副学長を表敬し、その際にも同副学長から、「アヴェイロ大学では、起業のためのインキューバータ施設も有しており、研究開発や起業支援のため、日本の大学、日本企業との協力関係の強化を図りたい」とのお話を頂きました。

私としましては、今回の大分市関係者のアヴェイロ市訪問を機に、これまでの人物交流に加えて、日本との経済関係の強化を図り、より厚みのある関係を築いて頂きたいと考え、両市の関係者に、特に経済・学術交流関係の強化を提案させて頂きました。

今回の訪問を踏まえ、今後は、大分市におかれては、隣接している別府市をはじめ大分県内の他市にも働きかけてアヴェイロ市との「経済・大学間交流」等を検討して頂けるものと期待しております。

また、私は、両市の代表者に対し、「安倍総理のポルトガル訪問の際に、我が国は、CPLP(ポルトガル語圏諸国共同体)へのオブザーバー参加の意図を表明し、7月23日のCPLP サミットでこれが承認されたこともあり、今後、CPLP 諸国における日・ポルトガル間の協力が期待されているので、将来の課題として、これらを念頭に置いて、姉妹都市交流を継続することについても検討して頂きたい」旨お願い致しました。

これに対し、特に、アヴェイロ市側は、7月の東チモールでのCPLP サミットにおいて日本がCPLPのオブザーバー資格を得たことに対し祝意を表した上で、CPLP 諸国における日・ポルトガル協力には大変大きい可能性が広がっていると、アヴェイロ市もCPLP 諸国内で研究開発や経済協力を実施しているところ、大分市をはじめ日本の地方公共団体や

日本企業との協力関係を検討していきたいとの意図表明がありました。

このように、安倍総理のポルトガル訪問以降、ポルトガル国内の地方公共団体、各大学・研究機関及びポルトガル企業関係者から、日本の大学・研究機関及び日本企業と協力して各種研究開発、貿易・投資の促進等経済関係の強化を図りたいとの要望が寄せられています。

また、我が国が CPLP のオブザーバー資格を得たことは、地方都市においてさえ良く認識されており、CPLP 諸国における特に日本企業との協力について関係強化の期待が高まっております。今後、この具体化の方途を探るべく皆様とも御相談致したく、御協力の程宜しくお願い致します。

10月に入り、季節の変わり目となりますが、皆様におかれましては、ご自愛の上御活躍されますようお願い申し上げます。